

降雪時の避難経路の確保【P】

- 青森県は毎年度除雪計画を定め、路線の重要性等を考慮してあらかじめ除雪路線を設定し、緊急時については当該路線毎の除雪作業目標に従い、適切に除雪を実施。【P】
- 直轄国道及び高速道路については、…冬期間の交通の確保等に努める。【P】



除雪機械(例)



<除雪機械の保有台数>

原子力災害対策重点区域5市町村		うち、東通村
国(東北地方整備局)	●台	●台
青森県	66台	●台
関係市町村	●台	●台
民間	●台	●台
高速道路会社(NEXCO)※1	●台	—
合計	●台	●台

※1 NEXCO東日本青森高速道路事務所【P】の保有台数。

※2 台数は平成28年●月●日現在。

5. PAZ内の全面緊急事態 における対応

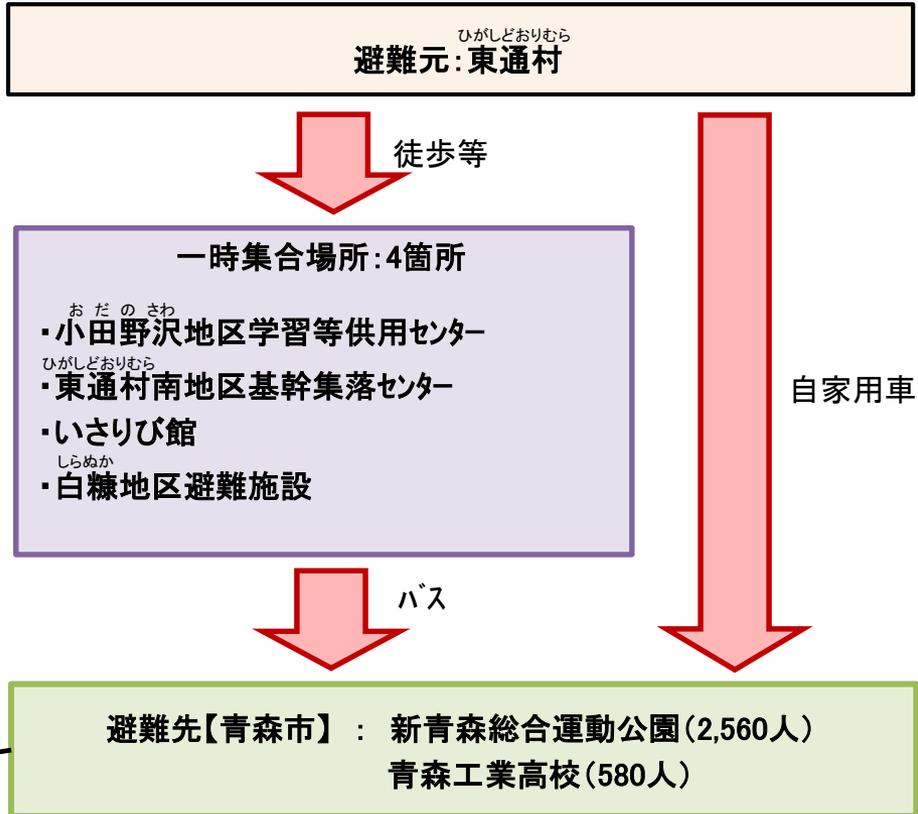
<対応のポイント>

1. 自家用車による避難ができない住民の移動手段(バス等)を確保し、避難を開始すること。
2. 避難先施設の受入れ体制を整えること。
3. 安定剤素剤を持っていない者(紛失等)に、緊急配布すること。

- ひがしどおりむら
- 東通村におけるPAZ内の住民については、自家用車で避難できる住民は、自家用車によりあらかじめ定められた青森市の避難先(新青森県総合運動公園又は青森工業高校)に避難。
 - 自家用車で避難が困難な住民は、徒歩等で一時集合場所に集まり、青森県が手配したバスで避難先へ避難。【P】
 - 避難先については、村の広報誌や訓練等を通じて対象となる住民に周知。



PAZ内地区	避難対象者	バス避難者数	自家用車避難者数
おだのさわ 小田野沢地区	850人	●●人	●●人
おいつへ 老部地区	843人	●●人	●●人
しらぬか 白糠地区	1,180人	●●人	●●人
合計	2,873人	●●人	●●人



()は収容可能人数

※ 避難対象者数は、PAZ内住民数から施設敷地緊急事態で避難する住民を差引いた数字であり、若干の増減がある

- ひがしどおりむら
- 東通村において全面緊急事態で必要となる輸送能力は、約●●人分:バス●台であり、青森県は「●●」に基づき、青森県バス協会に住民避難用バスを要請。【P】
 - 青森県バス協会は、同●●に基づく青森県からの要請を踏まえ、住民避難用バスを調整・確保するとともに、更に余裕を持った台数を確保。【P】

ひがしどおりむら
＜東通村において全面緊急事態で必要となる輸送能力＞

	想定対象人数※	必要車両台数	備考
バスにより避難する住民	●●人	●台	一時集合場所にて乗車 1台あたり●人の乗車を想定 【資料P35】

※ 数字は現段階で東通村が把握している暫定値

ひがしどおりむら
＜東通村における全面緊急事態での輸送能力の確保＞

		確保車両台数	備考
		バス	
(A) 必要車両台数		●台	
(B) 確保車両台数		計●台以上	
確保先	青森県バス協会	●台以上	PAZ・UPZ市町村が所在する地域のバス会社が保有するバス車両(貸切)総数182台【P】

※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、実動組織(警察、消防、海保庁、自衛隊)に支援を要請

- 東通村による●●調査の結果、PAZ内における自家用車で避難できない住民は約●●人。【P】
- 自家用車で避難できない住民は、東通村が設置する4箇所ひがしどおりむらの一時集合場所に徒歩等で集まり、青森県が手配したバスにより、避難先である青森市へ避難。【P】



一時集合場所	人数	バス必要台数
小田野沢地区学習等供用センター	●人	●台
東通村南地区基幹集落センター	●人	●台
いさりび館	●人	●台
白糠地区避難施設	●人	●台
合計:4箇所	●●人	●台

※ 数字は現段階で東通村が把握している暫定値